

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北陸)		-	-
		一般小売店〔書籍〕 （従業員）	・今が底で、今後は新製品や季節商材に期待できるだろう。
		家電量販店（店長）	・気温次第ではあるが、エアコンの販売単価が上がってきている。
		自動車備品販売店（役員）	・車検需要が続いている。単価は低い状況だが、集客面では期待が持てる。
		高級レストラン（スタッフ）	・6月は、企業や組合関係の年次総会後の会食を例年並みに受注している。また、県外からの団体旅行が秋口に次いで多い時期だが、前年比120%近い受注があり手応えを感じている。
		旅行代理店（支店長）	・個人旅行販売では、特に企画商品販売における夏季繁忙期の契約状況が前年同期比100%を超えている。
		通信会社（職員）	・地域の企業や商店からの広告掲載の問い合わせが増加傾向にある。
		通信会社（役員）	・ボーナス商戦を迎えて例年どおりに加入者獲得が増えると考えている。ただし、競合他社の動きが活発になっており、その影響を受ける可能性はある。
		通信会社（営業担当）	・繁忙期を過ぎたため今月の販売量は少なくなってきている。しかし、新商品の発表と同時に来客数は増えており、今後の見込みは期待できそうである。
		美容室（経営者）	・異業種の人と話す、仕事が忙しいと言う人が多い。
		住宅販売会社（従業員）	・これまで動きのなかった土地への問い合わせや、販売開始から1年以上が経過した分譲住宅の問い合わせがあり、まだまだ住宅需要の強さは衰えていない様子である。販売額も少しずつではあるが増えている。この状況はもう少し続きそうである。
		商店街（代表者）	・再開発計画が活発になり、その影響で空き店舗が増えている。早く着工して1日でも早くオープンしないと、再開発が完成する前に町が寂れそうである。
		商店街（代表者）	・暑くなったり寒くなったり、季節感が定まらず夏物衣料や履物の出足が鈍い。学生が増えたため人通りは若い層が増えているようだが、ランチや軽食の需要にとどまり他の方面にはまだ影響が少ない。
		一般小売店〔精肉〕 （店長）	・現状の来客数は下向きだが、来月に入るとギフトなどの動きがあり、それに期待したい。
		一般小売店〔事務用品〕 （店員）	・季節変動や働き方改革に伴う商品の発売などで一定の期待はできるが、販売増はあまり見込めない。
		一般小売店〔鮮魚〕 （役員）	・現状は決して悪くはないが、今後良くなる気配は見えない。業界的には夏場は魚の品種や単価が下がるため良くない。
		百貨店（営業担当）	・ここ数か月同じような状況が続いており、中間層の客単価が上がらない。催事などを企画しないと来客数自体も低迷し、買い回り客も減っていることから先行きに不安を感じる。
		百貨店（販売促進担当）	・働き方改革が推進されているが、消費者の生活の本質的な改善に至らず、その兆しもない。
		スーパー（店長）	・良くなる要素が見当たらない。
		スーパー（総務担当）	・5月の気温上昇にもかかわらず売上が伸びなかったため、天候による売上の変化は今後も発生しないだろう。
	スーパー（総務担当）	・競合店の改装や出店に伴ってパート、アルバイトの採用は厳しい状況が続くが、景気に対して大きく影響しないと考えられる。	
	スーパー（統括）	・消費動向に大きな変化が見られない。	
	スーパー（店舗管理）	・競合出店から1年が経過し、来客数は落ち着きを取り戻した。競合店でも同様に、今後は集客の競り合いとなるだけで、現状より効果が上がるとは考えられない。	
	コンビニ（経営者）	・カウンター販売のコーヒーの売上が好調である。また健康志向によるものか、サラダ類や野菜ドリンクが好調に推移している。一方で、逆に揚げ物などは前年を大分下回っている状況である。客の目的買いが顕著のように感じる。特に来客数や客単価が伸びている様子は今のところみえない。	
	コンビニ（店舗管理）	・猛暑くらいしか期待できる要素がない。	
	家電量販店（本部）	・消費を刺激する政策や革新的な目新しい製品などが特に見当たらない。	
	乗用車販売店（経営者）	・4月は給与改定月であるが、各方面から聞こえてくる内容では給与が少ししか上がらなかったとのことである。しばらくは消費が増えると考えられない。	

	乗用車販売店（従業員）	・販売数や来客数は共に大きく増加する要因がない。
	その他専門店〔酒〕（経営者）	・今後良くなるような材料が見えないし、また聞こえてこない。
	その他小売〔ショッピングセンター〕	・プライベートブランド商品や食料品、生活用品中心に値下げ品目を発表した。購買活性を上げる努力をしているものの厳しい状態である。
	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・衣料品については5月度は気温の動向がプラスに作用している。今後も気温により左右される可能性が高いため、不透明な部分が多い。来客数は引き続き前年比増での推移が見込めるため、衣料品以外については堅調に推移すると考える。
	一般レストラン（店長）	・人が動いている流れで少しずつ上向くことを期待している。
	一般レストラン（統括）	・北陸新幹線開業前に比べて、現在は景気が良くなった。しかし、開業後に一気に景気の良さを感じたためか、最近では横ばい、もしくは緩やかな下降を感じる。期待できる外的要因は少なくなっている。
	スナック（経営者）	・周辺の個人商店などでは良い会話のない状態であり、国際的な有事等でマイナス要因の可能性も大きく、あまり期待できない。
	観光型旅館（経営者）	・6月以降は夏休み期間も含めて個人客の受注が弱い。大手旅行会社によると北陸地区全般で個人旅行の売上が落ち込んでいるという。もう少し様子を見た上で、宿泊料金の見直しが必要になるかもしれない。
	観光型旅館（スタッフ）	・予約状況は前年比で5月が弱い状況であり、6月以降は75%前後で推移している。
	都市型ホテル（スタッフ）	・客の様子を見てみると、節約志向や生活防衛志向は変わらない様子である。
	都市型ホテル（役員）	・宿泊部門では、インバウンド客やビジネス客の予約状況は例年と変わらない。レストラン部門は店舗により異なるが、個人および法人の申込状況が例年と同様である。また、宴会部門も同様の状況であり、景気動向は変わらないと考える。
	タクシー運転手	・観光の予約が順調に入っている。
	タクシー運転手	・観光客やビジネス関係の人出などで大きな変動はなく、今までの好調が持続するとみている。
	通信会社（店舗統括）	・夏に向けての新商品発売があるが、大きな変化とはならないだろう。
	通信会社（営業担当）	・販売数を見たところ、ほぼ前年比の横ばいで推移している。
	テーマパーク（役員）	・先行予約状況を見ると、引き続き国内の団体客の予約は堅調に推移するものの、個人客の動きは鈍い動きが続く。また、インバウンド客については前年と比較すると減少傾向にあるとみられ、全体としてはこの状況が続くものと考えられる。
	競輪場（職員）	・5月の売上は減少傾向にあったが、下げ止まり感があるためこれ以上は減少しないと考えている。しかし、上昇する要素も見当たらない。
	その他レジャー施設（総支配人）	・夏に向けて特別販促のチラシ折込を行ったが、期待外れに終わった。再度、体験会を中心に夏に向けた販促を計画している。
	住宅販売会社（従業員）	・受注状況は厳しいが、注文住宅や分譲住宅の販売に注力していきたい。
	住宅販売会社（営業）	・変化する要素が見当たらない。
	百貨店（売場主任）	・コンビニエンスストアがナショナルブランドを一斉に値下げし、ドラッグストアがそれに対抗して更に値下げをするなど、デフレが加速している。このような状況下では景気は良くならないと考える。
	衣料品専門店（経営者）	・先行きの期待要因と不安要因では不安の方が大きく、衣料品に関しては淘汰がいよいよ起きつつある。
	住関連専門店（役員）	・販売数量や1品単価が共に落ち込んでおり、厳しい状況がしばらくは続くと考えられる。
	旅行代理店（所長）	・宿泊や交通に関して、インターネットや専用会員による直接申込の客が増加傾向にある。
	通信会社（役員）	・新たな支出に慎重になっている客に対して、新規契約獲得を進めていくことは現状では難しい。前年度の実績に戻るにはやや時間を要すると考える。
	x	-
企業動向関連		-
	食料品製造業（経営企画）	・前年同時期よりも販促を強化する予定であり、その成果を見込んでいる。

(北陸)		プラスチック製品製造業(企画担当)	・住宅資材では、リフォーム市場や非住宅市場での上昇が今後は見込まれる。経営資源を集中配分して成果につなげていく考えである。
		一般機械器具製造業(総務担当)	・国内と欧州でマシニングセンタの受注が伸びている。また、新型の加工機械も今年から順調に受注が伸びている。
		精密機械器具製造業(役員)	・自社商品とOEM商品も含めて、今まであまり受注量が多くなかった顧客からの受注案件が増えている。全体的には生産量を増やしていける見通しである。
		建設業(経営者)	・これも例年のことで、工事の発注がこれから本格化するであろうという期待感はある。
		通信業(営業担当)	・ランサムウェアなどによるセキュリティ脅威、また、改正個人情報保護法の施行など、中小企業でのセキュリティ関心度が高くなっている。それに対応する設備投資需要が発生すると期待している。
		繊維工業(経営者)	・ここしばらくは為替が安定しているので、輸出の伸びに期待している。
		繊維工業(経営者)	・国内の衣料関連の今後の動きは、先行き不透明感が強い。
		金属製品製造業(経営者)	・今後2~3か月先の受注状況のみで、変わらないと判断した。
		一般機械器具製造業(経理担当)	・数か月先までの受注状況が、海外向けを中心に当月並みに入ってきている。依然として人員不足感が強い中で、近隣では人が集まらない状況となっている。外国人技能実習生の活用を含め、人員不足対策が急務である。
		建設業(役員)	・首都圏以外は受注価格競争が更にし烈になり、受注環境の先行きは厳しくなると考える。
		金融業(融資担当)	・北朝鮮のリスクによる観光客の減少を懸念している。
		金融業(融資担当)	・運送業やサービス業等の取引先から、人材確保がますます困難になっている話を聞く。そうなると堅調な需要を取り込めずに機会損失につながる懸念があり、今後も堅調な景気が続くとは言えないようである。
		新聞販売店[広告](従業員)	・5月は前年比を超えた。大型家電量販店がオープンし、チラシのサイズアップが後押ししてくれた。しかし、売上増の要因が単一であり一過性であるため、景気回復の兆候までは見えていない状況である。
		司法書士	・福井国体や北陸新幹線開業等を見越した開発が進んでいる。しかし、企業本来の事業の状態については不明である。
		税理士(所長)	・中小企業の従業員については、給与のベースアップがなかなか厳しいのが現状である。会社全体で注文量や仕事量は増えても、給料の上昇が難しい状況である。残業時間が増えることによって従業員は給料を確保できた面もあったが、それでは労働時間の制約がある。中小企業レベルではパートを増やすなどで、1人当たりコストを抑えている様子である。今後、夏のボーナス時期を迎えて、世の中で給料を出せる雰囲気をもどれくらい作れるかが大事である。
			輸送業(配車担当)
		不動産業(経営者)	・個人客からの問い合わせが春先にはそこそこ出ていたが、この後2か月ほどすると少なくなるという話をよく聞く。また、法人関係からの問い合わせなどの話がないことから、同じような不安もあるという話が出ている。
	x	-	-
雇用関連		-	-
(北陸)		新聞社[求人広告](担当者)	・公表される各社の決算状況に低調感はなく、それを表すように求人者のマインドは高い。人材への投資が衰えない限り、景気が下がる理由はないと考える。
		学校[大学](就職担当)	・前年より企業の内々定の提示が早まっており、その数も増加している。追加募集の案内を出す企業もあり、企業の手不足と人材確保の難しい状況がつかえる。
		人材派遣会社(役員)	・6月以降は役所関係での需要件数が伸びている。しかし、求職者の仕事に対する意欲が乏しい。
		求人情報誌制作会社(編集者)	・大きな雇用につながる話が出てこない。
		新聞社[求人広告](営業)	・各企業の声を聞くと、どの業種も人手不足である。しばらくこの状態が続く。
		職業安定所(職員)	・一部の事業所からは良くなっているとの声が聞かれるが、一方で、忙しい割に利益が出ないという事業所の声も多く、全体としては変わらない。

	職業安定所（職員）	・有効求人倍率に関しては前年同月比はやや上昇の傾向にあるが、新規求人数がやや減少という傾向にあることから今後変わらずという判断をしたが、一方で新規求職者についても前年同月比で5.2%の減少という数字であることから、それを含めて今後も変わらないと考える。
	民間職業紹介機関（経営者）	・新卒入社などで充足感があるためか、新規の紹介や派遣の依頼が少なめになっている。
	-	-
x	-	-